

大学美術 教育学会 会報 No.30

2014年3月31日発行

編集・発行 大学美術教育学会総務局広報室

理事長 大嶋 彰 (滋賀大学)

総務局長 相田隆司 (東京学芸大学)

事務部長 佐藤聡史

事務局 〒389-0406 長野県東御市八重原 2912

TEL : 090-2560-5998 / FAX : 0268-61-6162

mail: daibibumon@po15.ueda.ne.jp

学会費値上げのご報告と退任のご挨拶



理事長 大嶋 彰 (滋賀大学)

二年間の理事長任期が終わろうとしています、本学会にとりましては非常に重要な変革期での二年間となりました。私に与えられた最大のミッションは、これまで佐藤事務部長お一人に頼りきっていた事務業務や、総務局長をはじめとして執行部の尋常ならざる仕事量に対して、学会専門の会社にアウトソーシングすることによって、会費、名簿管理はもとより、学会誌査読・編集、大会運営、ホームページ管理等学会運営業務の大幅な負担軽減を実現することでした。そのためには、これまでの会費では賄えないため、昨年10月13日の総会で3,000円の値上げをご承認いただきました。平成26年度から8,000円の会費となりますのでよろしく願いいたします。会員の皆様にはご負担をおかけしますが、これによってアウトソーシングがほぼ実現することになります。学会運営の実情をご理解いただき、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、平成26年度からは、新理事長および新執行部のもとで本学会の社会的使命がより発展的に前進することと確信しておりますが、現実の美術教育の状況は極めて厳しいものがあります。中学校や高等学校の美術科担当専任教諭の適正配置は地域により大きな偏りがみられ、また複数校を兼務している事例も多く、教大協研究部門を通じて要望書を提出していますが、実現の道は険しいものがあります。さらに、教員養成系大学のみならず美術系大学の志願者も減り続けている状況に留まらず、学生の質的变化にも憂慮するものがあります。美術教科が教育の重要な基盤として揺るぎない承認を得ることは、美術教育に携わる者にとって最重要の課題なのですが、美術それ自体の虚焦点的なあり方や、個々人固有の多様な研究に拡散しがちな領域の性格から根本的な理論に集約

しづらいことなど、隔靴搔痒の感をまぬがれないのが実情なのかもしれません。

しかし、本学会の役割はそのためにもこそあると言えるのではないのでしょうか。教大協全国美術部門との協働関係もこの課題抜きには考えられませんし、美術という教科を教育にしっかりと位置付けるためには幅広い経験と英知を集める場が何より必要なのだと思います。また我が国の美術教育では、全米美術教育学会 (NAEA) のような一本化した組織がないことから、国の教育施策に対しての発言力に脆弱さがつきまっています。現在三学会連携なども進めていますが、よりトータルな組織化なども喫緊の課題と思います。ともあれ、本学会の運営がスムーズに行われることになれば、このような様々な課題にも応えることができると思います。

最後になりましたが、本学会の益々の発展を祈念して退任のご挨拶とさせていただきます。

■平成 25 年度 大学美術教育学会「京都大会」報告

1. 日時:2013年10月11日(金) 諸会議、12日(土) 部門総会・協議会、13日
2. 会場:京都教育大学 F棟(共通講義棟)、A棟、C棟
(所在地:京都市伏見区深草藤森町)
3. 大会実行委員長 京都教育大学 村田利裕

<大会日程等>

【大会前日の諸会議】

2013年10月11日(金) 各委員会、役員会

13:00-13:30	拡大総務局会議
13:30-14:20	全造連大学委員会【部門】 ※全国大学造形美術教育 連絡協議会(年1回の美術部門全造連 大学委員と全美協の懇談会)
14:20-15:20 ※審議延長(15:20- 17:00)は可	国際交流委員会【学会】 学会誌委員会【学会】 附属学校委員会【部門】 特別課題検討委員会【部門】 (全美協 役員会)【私学】
15:10-15:30	拡大理事会受付【学会・部門共通】
15:30-16:30	拡大理事会【学会+部門(共通審議事 項を含む)】
16:30-17:10	美術部門協議役員会【部門】

【京都大会第1日】

2013年10月12日(土) F棟(共通講義棟)、A棟

9:00-	学会・部門受付	F棟入口
9:30 -11:00	日本教育大学協会全国美術部門 開会式、総会、協議会	F棟 大講義室Ⅱ
11:00 -11:25	第52回大学美術教育学会 全国大会開会式	F棟 大講義室Ⅱ
11:30 -11:57	口頭発表	F棟 F12,F16 F22,F26 A棟共通室 1A1
12:00 -13:00	昼休憩	
13:00 -15:37	口頭発表	F棟 F12,F16 F22,F26 A棟共通室 1A1
16:10 -17:30	シンポジウム「ひと」「感性」「表 現」の可能性<私の提言>	F棟大講義室Ⅱ
17:30 -19:00	懇親会場へ移動	
19:00 -21:00	懇親会	京都タワーホテル

【京都大会第2日】

2013年10月13日(日) F棟(共通講義棟)、A棟

9:30-	受付	F棟入口
10:00 -11:57	口頭発表	F棟
12:00 -13:00	昼休憩	
13:00 -13:25	ポスター発表	A棟 A1,A3教室
13:30 -14:57	口頭発表	F棟
15:10 -15:40	大学美術教育学会総会	F棟 大講義室Ⅱ
15:50-	引き継ぎ(大会運営理事H25京 都教育大学・H26福井大学)	

※大会期間中、併設企画として下記の行事を開催した。

- ・『一麦寮 色とかたち展-素材がうたう-』
場所:京都教育大学附属図書館企画展示室
- ・『全国美術教育学生会議』
各大学から参加した学生が美術教育についての議論を通
して交流を深めます。(12日13:00-16:00 会場:C1)



▲シンポジウムの様子

■平成 25 年度日本教育大学協会全国美術部門総会・協議会、第 52 回 大学美術教育学会「京都大会」の実施結果と大会運営委員からの御礼

村田利裕（京都教育大学）

1. 大会取り組みの概要

2013 年 10 月 12 日（土）、13 日（日）に京都大会（平成 25 年度日本教育大学協会全国美術部門総会・協議会、第 52 回大学美術教育学会）を京都教育大学で開催いたしました。秋の京都是まっ盛り、宿泊等もとりにくい時期で心配しておりましたが、総数 307 人のご参加をいただきました。京都大会実行委員会を代表しまして、心より御礼申し上げます。また、そのうち 97 人（大学院生 53 人、学部学生 44 人）が学生さんのご参加でした。指導をいただいた先生方ならびに積極的な意欲でご参加いただいた学生の皆様にご心より御礼申し上げます。また、本会を準備・開催するにあたり、大嶋彰学会理事、相田隆司総務局長、佐藤聡史総務局・事務部長ならびに本部委員の皆様には有意義なアドバイスと助力をいただきました。また、近畿と四国があります IV 地区には、口頭発表の司会等で多大なご支援をいただきました。初田隆委員や古草敦史委員には、その中心となっていただきました。地区ブロックの心からのご支援が、我々実行委員会の大きな精神的な支えでした。

さて、本京都大会は、「時代」を中心のキーワードに位置づけ、全体テーマを「岐路・激動の時代における感性教育の可能性 - 多様な人間発達・教育現場の試み -」としました。このテーマは、子ども達を取り巻く社会や自然の環境が、過去に無いほどの大きな変動期を迎えていることに端を発します。身近かなところでは時間削減問題もありますが、美術教育は、正に「感性」と「表現」の教科として、大きな役割を果たすべき重要な段階にあるとの考えが根本の考え方でした。また、人は、どう生きるべきなのか？何をなすべきか？など生きる意味や人間存在そのものに関わる深い問いかけが必要になってきているという時代の特性も背景にありました。様々な意味で、可能性を探り元気になることが必要な「時代」と捉えました。これらの点からシンポジウムを企画し、登壇者の実践である展覧会「一麦寮 色とかたち展 - 素材がうたう -」（京都教育大学附属図書館企画展示室にて）を開催いたしました。

学会発表の側面では、口頭発表は 5 室で、発表登録 64 件、62 件の発表がありました。造形論から学校論、美術教育論など幅広いジャンルの発表があり、ある程度グループ化して聞いていただけるようにと試みましたが、かなり困難な状況でした。

ポスター発表は、17 件、ポスター展示が 2 件と多数の発表がありました。ポスター発表は、2 日目で 2 室を発表会場としました。少しでも予め見ていただけるように初日から展示可能としました。ポスター発表当日は、かなり熱気に溢れた交流の場となり、自由な質疑と相互交流の場となりました。また実物資料等のリアルな発表が一層場を活気に溢れる状況にしてい

ました。一方、京都教育大学には、展示用パネルが無くレンタルで借りての実施でした。発表者も多かったのも、実行委員会としては、予算面・準備面で課題が多い企画でした。どの大学でも大会を引き受けられるようにしようとすると、発表者の参加費に課金する、学会から別立ての予算とするなどの工夫が必要だと思われます。

学部生の研究発表は美術教育学生会議とよばれていますが、学生さんの自主的・主体的ご研究や取り組みやエネルギーを感じさせる印象深い会となりました。

懇親会は、10 月 12 日（土）に午後 7:00~ 京都タワーホテル（9 階 飛雲の間）で開催しました。124 人のご参加をえました。「京都味巡り」と称した企画時間をもって、精進料理や京料理の雰囲気味わっていただくこと、「麩まんじゅう」（五条大橋のたもと半兵衛「京なま麩」（植物性たんぱく）と伏見の増田徳兵衛商店 月の桂（にがり酒）を味わっていただきました。また、それぞれの方の時間は少なかったのですが、北海道を起点として全国の話の話をううことができました。

2. 今後の課題（内向きの取り組みと外向きの取り組み）

本学会の継続的な取り組みである口頭発表やポスター発表・ポスター展示、学部生への取り組みなど、かなり発表の方法は増加傾向にあり、学术交流の場が保証されてきていると考えられます。ところが、今日の美術科が置かれているかなり厳しい状況を見ると、図画工作や美術の素晴らしさを外に訴えていく社会的責務があるのではないのでしょうか。前者を内向きの取り組みとすると、ものづくりや絵を描くことなどの重要性を外にアピールする取り組みは外向きの取り組みといえるでしょう。京都大会は、外向きの取り組みができなかったと反省しています。メディアは取り上げたのか？地域教育との関係は深まったのかという点です。今後本会の全国的な繋がりを生かして、「美術教育は、素晴らしい!!」という声が日本全国に大きくなっていく必要があります。是非芸術の評価を外から受けられるようにしていくべきではないかと考えます。

3. お詫び

最後になりましたが、口頭発表で、当日やむをえない理由でご発表をお取りやめになられたお二人の方について、実行委員会のメールシステムが不十分で、発表会場に上手くご連絡できませんでした。上中良子（京都橘大学）様、深田資子（広島大学大学院）様ならびに、聴講をご予定いただいた関係各位には多大なご迷惑をおかけしました。この場をおかりしお詫びいたします。

以上、ご報告をいたし、御礼と感謝に代えます。

第51回大会シンポジウムと関連展覧会の概要

1. シンポジウムについて

シンポジウムのテーマは、「ひと」「感性」「表現」の可能性 <私の提言>でした。よく、勤務する校種間や専門とする分野間の違いが垣根となり、それを越えて議論することが出来ない場合があります。冒頭、司会の竹内博氏（京都教育大学名誉教授、美術科教育）から、「今日ご参加いただいている先生方の専門視点を一度取り払っていただいて、人間存在の根本問題に関わる感性について、語り合いたい」と提起されました。なお、本シンポジウムの登壇者の方には、研究発表概要集（pp.15-21）にそれぞれA4 2ページにわたる概要をお書きいただいでご提言いただきました。研究発表概要集をご参照いただければ幸いです。

最初のパネリストは岡本哲雄氏（関西学院大学教授、教育哲学）でした。「吉永氏や田中氏のご経験やご高察に、フランクルの考え方を添えさせていただくとどんな地平が開かれてくるのか私自身も楽しみである」とシンポジウムの位置づけを話され、オーストリアの精神科医ヴィクトール・エミール・フランクルの教育思想（『人間とは何か』など）から、人の可能性を見つめる視点について提言いただきました。ひとは、それぞれの状況において、独自で唯一無二の存在の「意味」（可能性）を実現することを積み重ね、人生に対しての「責任性」、すなわち人生に「応答する力を養う・・・」との見方が提示されました。人生に落胆するのではなく、人生から人が期待され我々が応えるのであるという観念の転回です。さらに「個々の人間生成はすべて、究極的にはいつも新しい奇跡である。」（『制約せざる人間』という教育者が直面するかもしれない独自の見方も提起されました。

次に、人間発達を視野に入れるために、社会福祉施設の創設に関わってこられた、吉永太市氏（旧一麦寮長）、田中敬三氏（旧第二びわこ学園粘土室担当）の両氏のご提言をいただきました。吉永氏は、当時知的障害の子どもには自発性がないと受け止められていた実態をひもとき、あらゆる人に自発性が存在していることを提言されました。そして、その実践例を企画展で提示していただきました。一麦寮は、近江学園を開いた画家田村一二氏を初代寮長とする学園で、造形活動を「生産的な粘土活動」から「自由な造形活動」へと進めていく教育理念が流れています。

田中敬三氏は、重症心身障児（者）のフィールドで、この芸術原理の強靱さを見つめた実践家です。吉永太市氏に教えをこいながら、粘土がどんな教師よりも園生さんによ



りそって歩んでいる姿を捉えようとしています。この実践は、岩波ジュニア新書 602 でお読みいただけます。ご発表は、社会福祉法人びわこ学園理事長山崎正策氏のご協力とあとおして実現しました。

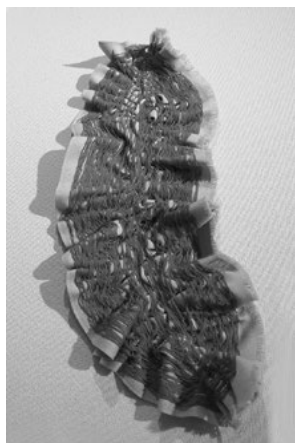
パネリストの3先生には、無理なお願いにもかかわらず、快くお引き受けいただき、重大なテーマに光を当てていただきました。心より御礼申し上げます。

2. 関連する展覧会について

シンポジウムの内容を肌で感じていただけるようにしたいと考え、2013年10月1日〔火〕～31日〔木〕に、社会福祉法人大木会一麦（旧名一麦寮）の寮生の作品展を開催しました（於：学内の新附属図書館企画展示室・オープンスペース）。一麦の作品群は、岡本太郎氏が高く評価し、陶芸家八木一夫氏も関わってこられた作品群でもあります。絵画 58 点、粘土の作品 100 点、切り絵 17 点、布や糸の造形作品 42 点、総数 217 点を展示しました。企画側が展示している時も、作品の色やかたちは、光のような輝きにかわり私たちの目の前に現れてくるようでもあります。作り手の寮生も展覧会を見に来てくれました。来場者は芳名録記帳者だけで 635 人でした。ご報告して、一麦様はじめ関係者の方々への御礼に代えたく思います。なお吉永氏の実践は、次の文献でお読みいただけます。また、会場で、初めてご覧になる方のために、数点の写真撮影を認めていました。ご発表になる場合は、一麦の許諾が必要となります。必ず下記にお問い合わせくださいますようお願いいたします。竹内博、春日明夫、長町充家、村田利裕編（2005）『アート教育を学ぶ人のために』、世界思想社、pp.51-64

一麦 住所：湖南省東寺2丁目2-1 TEL：0748-77-3029





■日本教育大学協会全国美術部門代表・ 大学美術教育会理事長選考委員会報告

委員長 新関伸也（滋賀大学）

現、日本教育大学協会全国美術部門代表・大学美術教育会理事長（以下、理事長）大嶋彰（滋賀大学教授）氏が平成25年度末で任期満了となるため、次期平成26年～27年度理事長選出のために、下記選考委員会を開催し、理事長選考に至りました。以下経緯を報告します。

■会議名：平成26年度日本教育大学協会全国美術部門代表・大学美術教育会理事長選考委員会

【議事録】

日 時：平成25年10月11日（日）11：30～12：30

場 所：京都教育大学本部小会議室

出席者：大嶋彰（部門代表・理事長）、新関伸也（副理事長）、岩村伸一（副代表）、相田隆司（総務局長）

欠席者：小野康男（副理事長）、山口喜雄（副代表）、大泉義一（部門総務部長）、芳賀正之（学会総務部長）

※欠席者は、議事に対して委員長に委嘱あり。

議事：

(1) 選考規程審議

理事長を選考するための規程が定められていなかったために「全国美術部門代表・大学美術教育学会理事長選考委員会規程（案）」に基づき審議、その後規程を定める。なお、平成25年4月1日より、遡って施行することとする。

(2) 選考委員長選出

選考規程第4条に基づき、委員から互選で委員長新関伸也（滋賀大学）を選出し、委員長が岩村伸一（京都教育大学）氏を職務代行者（副委員長）として指名する。

(3) 部門代表・理事長候補者名簿作成、依頼

選考委員会にて、理事長候補者名簿を作成。名簿第1位者に対して、文書にて委員長が依頼し、承諾を得ることに決する。

その後の手順と手続きを確認する。

委員会開催の翌日、委員長は、平成25年10月12日（日）付で「理事長就任の依頼文書」を名簿第1位者に対して郵送し、平成25年10月18日（金）までに就任の諾否を連絡して頂くこととした。

その結果、次期理事長候補者として、増田金吾（東京学芸大学教授）氏に内諾を得ることが出来ました。

平成26年1月25日（土）の運営委員会にて報告し、3月15日（土）拡大理事会にて、承認される予定である。

第 52 回大学美術教育学会全国 大会開会式・総会報告

■開会式

日時:平成 25 年 10 月 12 日 (土) 11:00 ~ 11:25 会場:
京都教育大学 F 棟 大講義室 II

司会進行:日野陽子 (京都教育大学)

1. 開会の辞 学会副理事長 新関伸也 (滋賀大学)
2. 祝辞 位藤紀美子 (京都教育大学学長)
3. 大会案内 村田利裕 (京都教育大学)

■大学美術教育学会総会

日時:平成 25 年 10 月 13 日 (日) 15:10 ~ 15:40

会場:F 棟 大講義室 II

司会進行:岩村伸一 (京都教育大学)

1. 挨拶 学会理事長 大嶋 彰 (滋賀大学)
2. 議長団選出:議長候補:九州地区 栗田裕至 (佐賀大学)、
副議長候補:北陸地区 江藤望 (金沢大学)
3. 総会

【報告事項】

- (1) 会員登録・会員申込 総務局長 相田隆司
- (2) 学会誌委員会報告 委員長 新関伸也
- (3) 国際交流委員会報告 委員長 安東恭一郎
- (4) その他

【協議事項】

- (1) 平成 25 年度役員 (理事)・委員構成等 理事長 大嶋 彰
 - (2) 平成 24 年度事業・決算報告 総務局長
 - (3) 平成 24 年度監査報告 監事 増田金吾 (東京学芸大学)・小澤基弘 (埼玉大学)
 - (4) 平成 25 年度事業計画 (案)・予算 (案) 総務局長
 - (5) 学会会則及び各種規定・細則の改正 理事長
 - (6) 平成 26 年度大会開催大学 理事長
 - (7) その他
4. 議長団解任
 5. 次期開催大学挨拶
 6. 開催大学挨拶 村田利裕 (京都教育大学)
 7. 閉会の辞 副理事長 小野康男 (横浜国立大学)

※大会運営事務引継ぎ 学会総会終了後 (H25 大会運営理事・委員 +H26 大会運営理事・委員)

(記録:総務局)

平成 24 年度決算

収入

費目	平成 24 年度予算	平成 24 年度決算	増減
前年度繰越	1,533,936	1,533,936	0
会費収入	3,250,000	3,090,000	-160,000
未納会費	500,000	375,000	-125,000
学会誌掲載負担金	1,800,000	1,680,000	-120,000
雑収入	0	3,500	3,500
収入合計	7,083,936	6,682,436	-401,500

支出

費目	平成 24 年度予算	平成 24 年度決算	増減
研究大会補助金	300,000	300,000	0
大会概要集刊行費	200,000	0	-200,000
学会誌刊行費	2,500,000	2,200,000	-300,000
学会会報刊行費	200,000	116,000	-84,000
会員名簿刊行費	0	0	0
封筒その他印刷費	40,000	85,470	45,470
運営委員会費	250,000	558,820	308,820
学会誌委員会費	150,000	217,150	67,150
国際交流委員会費	150,000	141,250	-8,750
拡大理事会費	300,000	254,740	-45,260
会議費	100,000	139,600	39,600
通信費	10,000	10,000	0
郵送費	500,000	378,120	-121,880
事務費	30,000	32,525	2,525
支払手数料	10,000	3,150	-6,850
サーバー使用料	30,000	0	-30,000
雑費	30,000	0	-30,000
事務部業務委託費	550,000	460,000	-90,000
HP 製作費	100,000	100,000	0
HP 管理費	60,000	60,000	0
予備費	1,573,936	1,625,611	51,675
合計	7,083,936	6,682,436	-401,500

大学美術教育学会

理事長 大嶋 彰 様

平成 24 年度大学美術教育学会の会計について、平成 25 年 9 月 12 日 監査委員会を開催し、会計監査を実施した結果、

1. 収支について伝票類と帳簿類を対照監査した結果、それらが正確に仕訳、記帳されていました。
2. 収支の伝票類と帳簿類は整理され、収支の内容・使途も明確に記帳され、余料が適切に処理されていました。
3. 帳簿差引残高及び貯金・現金残高と決算書との対照も行いましたが、正確であることを確認しました。

以上のごとく、平成 24 年度会計の処理及び決算が正確に執行されていたことを報告いたします。

平成 25 年 9 月 12 日

大学美術教育学会

監事 小澤基弘 (印)

監事 増田金吾 (印)

■平成 25 年度予算

収入

費目	平成 24 年度予算	平成 25 年度予算	増減
前年度繰越	1,533,936	1,625,611	91,675
会費収入※1	3,250,000	3,500,000	250,000
未納会費※2	500,000		-500,000
学会誌掲載負担金※3	1,800,000	1,680,000	-120,000
雑収入	0	0	0
収入合計	7,083,936	6,805,611	-278,325

※1 会費収入=@5,000円×700名

※2 未納会費件数は減少したため本年度は費目立てなし

※3 学会誌掲載負担金=@30,000円×56名

支出

費目	平成 24 年度予算	平成 25 年度予算	増減
研究大会補助金	300,000	300,000	0
大会概要集刊行費	200,000	200,000	0
学会誌刊行費	2,500,000	2,200,000	-300,000
学会会報通信刊行費	200,000	150,000	-50,000
学会誌リニューアル費	0	50,000	50,000
会員名簿刊行費	0	200,000	200,000
封筒その他印刷費	40,000	100,000	60,000
運営委員会費	250,000	500,000	250,000
学会誌委員会費	150,000	250,000	100,000
国際交流委員会費	150,000	150,000	0
拡大理事会費	300,000	400,000	100,000
会議費	100,000	200,000	100,000
通信費	10,000	10,000	0
郵送費	500,000	600,000	100,000
事務費	30,000	30,000	0
支払手数料	10,000	10,000	0
サーバー使用料	30,000	30,000	0
雑費	30,000	30,000	0
事務部業務委託費	550,000	500,000	-50,000
HP 製作費	100,000	0	-100,000
HP 管理費	60,000	60,000	0
予備費	1,573,936	835,611	
合計	7,083,936	6,805,611	

■大学美術教育学会 平成 25 年度 事業報告

3月15日(金) 拡大総務局会、第2回拡大理事会、各種委員会(学会誌委員会・国際交流委員会)(TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター)

(平成25年3月)「学会会報・第28号」発送3月中旬・発送(「京都大会案内」予告)

[平成25年度]

6月9日(日) 学会運営委員会(オフィス東京 会議室)

6月16日(日) 第1回学会誌委員会

6月中旬「京都大会案内(第2次)」研究発表(口頭)・ポスター発表・ポスター展示・投稿論文登録の「申込案内」

6月中 平成24年度会計監査(小澤監事・増田監事)

7月20日(土) 大学美術教育学会「京都大会」研究発表(口頭)・ポスター発表・ポスター展示の「申込」締切

7月31日(水) 研究発表(口頭)・ポスター発表「概要集原稿」提出締切

8月末~9月10日「学会会報・29号」(「京都大会案内(最終)」)

9月8日(日)「投稿論文」締切(消印有効)

9月12日(木) 京都大会参加申込 締切

9月15日(日) 学会運営委員会(東京 会場未定)

10月11日(金) 大会前日諸会議(拡大総務局会、第1回拡大理事会、各種委員会(第2回学会誌委員会・国際交流委員会))(京教大学)

10月12日(土) 第52回大学美術教育学会「京都大会」開催(京都教育大学) 学会総会、シンポジウム、研究発表(口頭)、ポスター発表・ポスター展示 学会・部門合同懇親会

10月13日(日) 研究発表、学会総会、閉会式 大会開催大学引継ぎ(次期開催大学-京都教育大学)

10月26日(土) 第3回学会誌委員会

12月 造形芸術教育協議会関係(三学会連携協議 予定)

12月17日(火)「投稿論文の最終提出」提出締切(必着)、学会誌編集作業開始

(平成26年)

1月25日(土) 学会運営委員会・次期代表選考(東京 会場未定)

1月末 投稿論文掲載者による掲載負担金納入

2月末 投稿論文(校了※厳守)

3月15日(土) 拡大総務局会、第2回拡大理事会、各種委員会(第4回学会誌委員会・国際交流委員会)(TKP 東京・京橋)

3月中旬「学会誌・第46号」発行・郵送、「学会会報・第30号」(次期大会予告)発行、「学会会員名簿2013」発行・発送3月末日(次年度組織・運営に関する執行部・各役員の引き継ぎ)

※4月以降、新組織で運営する 以上

■平成 25 年度学会誌委員会事業報告

学会誌委員会委員長 新関伸也 (滋賀大学)

1. 学会誌紙面変更

日本学術会議協力団体に登録以降、本学会の目的の一つとして、科学技術振興機構の Web サイト「J-STAGE」への論文掲載があります。

その第 1 段階として「美術教育学研究」第 46 号から英文要旨を冒頭に移動し、和文要旨とキーワードを新設するなど誌面デザインを全面的に変更し、「J-STAGE」掲載に適った様式に体裁を変えることになりました。

次の段階としては、「J-STAGE」への論文搭載にあたり、論文の著作権の学会譲渡をクリアしなければなりません。来年度は投稿規程を改定しつつ、本学会誌を「J-STAGE」に申請する予定です。

また、この様式に変更したことで論文内容が把握可能となり、読者や査読者を始め、査読依頼の業務においても利便性が増すことになりました。

2. 投稿方法

論文投稿方法ですが、学会 Web からの申し込みに合わせて、別途用意した論文執筆用の Word のフォーマットを利用して頂きました。よかれと思った方法でしたが、組み版とフォーマットの文字数が齟齬があり、校正段階で筆者の方々に文字数を減らして頂くことになり、恐縮しております。フォーマットのチェック不足と反省しています。来年度は、ベストな方法に改善します。

3. 査読体制

論文査読は、投稿論文 1 編につき 2 名による査読に変更となりました。一抹の不安もありましたが、ていねいな査読結果と報告書を頂き、今後は 2 名の査読体制で十分可能であると判断したところです。しかし、査読結果が分かれた場合には、掲載の可否を決定する学会誌委員会、そして委員長、副委員長の冷静かつ厳正な判断が迫られることとなります。

4. PDF による校正

学会誌の組み版後の校正は「初校のみ」となりました。メールによる PDF による校正は、初めての試みでしたが大方の執筆者の方々にご協力を頂き、印刷所とのやり取りもスムーズに言ったと聞いております。これまでの紙媒体や郵送によって生じるタイムロスや経費増額を考えると、電子メールによる PDF 校正は、経費削減からみても避けられなくなっています。

5. 来年度学会誌の編集体制

来年度より、全面的に学会業務を京都の中西印刷(株)にアウトソーシングすることになりました。それに伴い、学会誌の投稿方法や査読体制を全面的に改め、学会 Web や電子メールによる業務推進が図られます。簡単に言えばペーパーレスで査読、編集業務を進めることとなります。従って来年度は学会誌委員会も平成 25 年度並みの開催が必要か

どうか、検討しているところです。なお、学会の業務推進にあたり、変革期や移行期間には、予測できない事態も予想されますが、未来の学会の発展のためにご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

【平成 25 年度学会誌「美術教育学研究」46 号報告】

- ・9月8日、事務局投稿締め切り、投稿論文受理数 58 編。
- ・9月14日、58 編の内 2 編は、英文サマリーがないために書類不備として査読から除外し、残り 56 編を 1 編あたり 2 名の査読者に依頼する。
- ・10月19日まで、査読結果及び報告書を事務局に返送。
- ・10月26日、査読結果及び報告書に基づき委員会にて審議し、その結果、掲載可 21 編、条件付掲載 17 編、不掲載 20 編となる。
- ・12月22日、条件付論文について、2 編の辞退をのぞいた 15 編の掲載を決定した。

■投稿数 58 編。査読数 56 編。掲載 36 編、不掲載 20 編、条件付き査読辞退 2 編。掲載率は、62% (昨年度は 64%)。

【平成 25 年度委員会報告】

- (1) 第 1 回 学会誌委員会 (幹事会①※)
日時：6月16日(日)13:30～17:00
会場：滋賀大学大津サテライトプラザ
内容：事業日程及び内容確認、細則変更
- (2) 学会誌委員会幹事会②
日時：9月14日(土)11:00～16:00
会場：静岡大学教育学部
内容：査読者決定及び依頼
- (3) 第 2 回 学会誌委員会 (京都大会)
日時：10月11日(金)14:20～15:20
会場：京都教育大学大会議室
内容：投稿及び査読依頼報告
- (4) 第 3 回 学会誌委員会
日時：10月26日(土)13:30～17:00
会場：JR静岡駅 PARCHE 7 F 「C 会議室」
内容：論文掲載可否の審議
- (5) 学会誌委員会幹事会③
日時：12月22日(日)10:30～14:00 迄
会場：静岡大学教育学部
内容：修正論文の掲載可否
- (6) 第 4 回 学会誌委員会
日時：3月15日(土)14:30～16:00
会場：TKP 東京駅京橋ビジネスセンター
内容：事業の総括、次年度計画
※幹事会一委員長、副委員長、委員長委嘱委員

■平成 26 年 1 月 31 日 (金)

掲載負担金納入締め切り (事務局)

■平成 26 年 3 月 31 日 (月)

学会誌「美術教育学研究」46 号発行・郵送 (中西印刷)

■平成 25 年度国際交流委員会報告

安東恭一郎（香川大学）

本年度の国際交流委員会は、2 回の委員会会議を開催し、活動方針を検討すると共に「国際交流情報誌 IRCN」を 2 回発行し、会員に国際関連情報を提供しました。加えて、本年度は中村委員が主催する米国・前 NAEA 会長・セイボル氏の講演（本内容については IRCN 第 10 号で報告します）を後援しました。また、委員会制度について一部改正しました。以下、これら関連する取り組みを報告します。

1、「協力委員」の設置

本委員会委員選出方法は、2 年間の任期を原則としながら、実質は継続し複数任期となる状態が続いています。その理由として、海外と繋がっている会員は限られているので、委員の残留をお願いしていたことがあげられます。また、一方で委員を辞められた場合、その委員が担当していた海外との交流が進みにくい、という課題がありました。

そこで、本年度は、委員を辞められた方に「協力委員」となって、必要とあれば協力していく制度を提案し、了承されました。この制度によって委員任期の交代がすすみやすくなり、退任後も引き続き海外との交流を委員会として継続できることが期待されます。

2、『国際交流情報 :IRCN』の発行

IRCN・第 8 号では 25 年度・第 7 号で本学会会員によって報告された「海外の美術教育の研究動向」を引き継ぎ、「海外での授業実践場面報告」を特集しました。

IRCN・第 9 号では「2014 年度 InSEA 豪州大会特集」とし、2014 年 7 月 7-11 日にオーストラリア・メルボルンで開催される国際美術教育学会に関わる InSEA に関する特集としました。この特集では、日本の美術教育関係者がこれまで InSEA とどのように関係を構築、あるいは貢献し、現在に至っているのかを報告しました。

本号発行時、InSEA 豪州大会の詳細は公開されていなかったもので、大会テーマや参加方法など具体的な紹介ができませんでした。日本では授業実施期間中となる 7 月のこの時期に参加できる会員は限られると思われ、また高額な参加費用や求められる発表基準の高さなどから今回はいつもより参加しにくい状況にあるようにも見えます。

IRCN・第 10 号（26 年 3 月発行予定）については、学会員の海外における調査研究活動報告を主たる内容としながら海外の美術教育情報を会員諸氏に広報していく予定です。

3、国際交流活動の支援

(1) 2017 年度開催予定 InSEA、韓国大会の推薦本年 2014 年に開催される InSEA 豪州大会に引き続き開催される 2017 年度国際学会の候補地としてトルコ、韓国が立候

補している件に関して、韓国関連学会（主たる美術教育学会連合）から本学会に対して推薦依頼がありました。このことに関して国際交流委員会でメール審議した上で、理事会の了承を得て本学会として推薦状を作成し送付しました。

その後、2017 年度 InSEA 大会開催地は、韓国に決定された旨通知を受けました。

(2) NAEA 前会長の招聘事業の支援

本国際交流委員から科研事業として NAEA 会長を招聘し講演会を企画する際、学会の後援名義使用許諾願いがあり、国際交流委員会でメール審議した上で、理事会の了承を得て後援名義使用を許諾しました。

4、今後の課題

IRCN では、毎回特集を組みますが、その際国際交流委員が投稿していただける会員に個人的に原稿依頼する状況が続いています。この方法では投稿者が限られ、情報も偏ります。

今後、より多くの国際情報を共有するためにも原稿投稿方法を再検討していくことも、先の協力委員制度と同様の課題です。

■ 2014 年 福井大会のお知らせ

第 53 回大学美術教育学会・福井大会
平成 26 年度日本教育大学協会全国美術部門総会・協議会の開催の一次案内

教大協美術部門・大学美術教育学会全国大会委員長
福井大学教育地域科学部教授 宮崎 光二

第 53 回大学美術教育学会（福井大会）並びに平成 26 年度日本教育大学協会全国美術部門総会・協議会を福井大学で開催いたします。これまでの美術教育を真摯に振り返りつつ、これからの美術教育の活路について積極的な教育研究・協議がなされる大会にしたいと思っています。どうか、下記の日程に合わせて、研究発表・大会参加へのご準備をよろしく願い申し上げます。

■開催日：2014 年 10 月 4 日（土）、5 日（日）

※ 3 日（金）事前各種会議日

■会 場：福井大学（福井大学文教キャンパス）

総合研究棟 V（教育系 1 号館）

福井県福井市文京 3 丁目 9-1

■テーマ：「教えること・育てること - 美術教育の原点を問い直す」

■内 容：総会、研究発表（口頭発表、ポスター発表、ポスター展示）、企画行事、懇親会など

企画・運営：第 53 回大学美術教育学会福井大会事務局

主催：大学美術教育学会

※共催、後援等については申請中です。

正解のない課題から知を創造し、表現し共有化する社会である知識基盤社会に突入したと言われる今の時代、子どもたちにも、他者と協働しながら複雑な現象に対し情報の収集・分析・判断を行い、実行した結果を社会に問うていくといったグローバルスタンダードの能力が求められるようになりました。自ら課題を見つけ自ら学び自ら考える力を提起した文部科学省の「生きる力」、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力の必要性を唱えた経済産業省の「社会人基礎力」、社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力・人間関係形成能力・自律的に行動する能力を求める OECD の「キー・コンピテンシー」など、いずれもどのようなグローバルスタンダードの能力を要請しているかが伺えます。

福井大会では、多様な立場の参加者と共に考えていくことができるような「問い」を立て、様々な対話や議論が生まれる「広場（シンポジウム・ポスターセッション・学生会議等）」を創り出したいと思っております。そのために、教育の原点である「教えること」「育てること」について、それぞれの立場から語り合えるような対話を生み出すキーワード

（遊び・心・身体等）を精選することを核に据えながら、準備にとりかかっているところです。リアリティをもった美術教育の中にある「教えること」「育てること」を捉えなおし、それらが異なる文化や人の受容を踏まえた創造性を求めるグローバルスタンダードとどのように連動していくのかを表明し、さらには大学の教員養成を含む教育現場の自律性の意義を確認していきたいと考えています。

どうか、福井大会にふるってご参加いただけますようお願い申し上げます。皆様からの貴重なご研究やご提言をいただくとともに、それぞれの「広場」において新たな指針を生み出すことができれば、開催大学として喜びこれに勝るものではありません。是非、本大会日程を押さえていただきますようお願い申し上げます。

◆前 日 平成 26 年 10 月 3 日（金）

拡大理事会、各委員会、美術部門協議役員会等

◆第 1 日目 平成 26 年 10 月 4 日（土）

①学会・部門受付（9 時以降の予定）

②日本教育大学協会全国美術部門 開会式

第 52 回大学美術教育学会全国大会 開会式

③日本教育大学協会全国美術部門協議会

④研究発表 I・II（11 時以降の予定）

⑤ポスターセッション（ポスター発表・ポスター展示）

⑥懇親会（福井大学アカデミーホール）

○美術部門協議会

* 日本教育大学協会全国美術部門協議会のテーマ

「教科専門から教科教育へのアプローチ」（仮）

* 大嶋彰（滋賀大）と白井嘉尚（静大）の発表・討論

◆第 2 日目 平成 26 年 10 月 5 日（日）

①学会・部門受付（9 時以降の予定）

②研究発表 III（9 時 30 分以降の予定）

③全国学生会議

④日本教育大学協会全国美術部門総会 / 総会大学美術教育学会総会

⑤企画「美術・遊び・大人⇔世界（共同体）」

⑥研究発表 IV（14 時以降の予定）

※日程（研究発表、企画）については調整中です。

《開催の主旨》 美術・遊び・大人⇔世界（共同体）

「美術教育」という言葉を基本的な要素に分解してみると、「美術」、「教える」、「育つ」という 3 つの言葉が導き出されるのだが、これらが最終的に目標とするところを、端的に「世界（共同体）」への参画、参入にあると考える。美術の表現行為とそれを取り巻く様々な現象は、この為の独特な方法であると捉える視点をまずおいてみたい。そして、その為の媒体や触媒として、特に「遊び」という考え方をここに加えてみたい。

「遊び」には様々な意味が含まれるが、先ず自由な発想が自在に動き始める無色の場所を想像している。議論があらかじめなんらかの色に染められているところで、いくら表面的には活発に展開したとしても、ある水準を超えることはないし、果たしてそこでいかに程の成果を期待することができるだろうか。又、「遊び」には、有用であるとか、有益であるという、時に固執ともなりかねない意識から一旦距離を置くことが含意されている。いわば不真面目で無責任な態度を推奨はしないが、許容されるものとしてとらえ、常識というものを瞬間でもいいから転倒させることを、言葉は悪いが意図している。逆に言えば、今はそのようなことが真剣に必要とされる状況だとも言えるだろう。そして「遊び」が美術の本質に深くつながっていることは疑いのないことであって、「遊び」でない美術活動などはそれこそ異常な行為でしかない。更に「遊び」は「教える」と「育つ」ということとも強く関連付けられている。心や精神が他者や事物と豊かな関係性を構築するためには、その内側に隙間を保っておく必要がある。場所という誤解を招くかもしれないが、自身を能動的に動かす為の心理的空間ととらえてもいいだろう。そしてこれら複数の意味を含んだ「遊び」が「世界（共同体）」を作り上げる原動力となることを考えている。「想像する力」が働く場所であり、「創造力」が発現する舞台でもある。

さて、「世界（共同体）」のなかの一員として責任を果たすことの中には様々な側面があることが想像される。「育つ」ということの中には、とりわけ「大人」になることが必須のこととして求められるし、そのなかでの社会的義務を自問することから「世界（共同体）」に対して、一人ひとりが独自の貢献をしなければならぬ。「公共性」や「市民意識」といったことにも当然関心を持たなければならないし、それは大人としての義務でもある。この為には、個人と「世界（共同体）」が相互に相手を包摂するという構造が考察されなければならないし、そこで私達は、「美術」という営為が何であるか、又、何を成し得るかということを探らなければならない。そして、これらのことを、学校教育のなかの「美術教育」ということに留めず、教育という、より大きな枠組みからの視点を通して明らかにし、私たちが示す知見として一般に提議する義務と責任があると考えべきである。又、これに加えて、私たちは「美術」という表現そのものに対しても責任を課せられている。「美術」を学ぶうえでの基礎的な知識の獲得や、その為の修練という視点をなおざりにすることは出来ない。多くの貴重な才能が適切な助言と指導もなくあたら失われてしまったという思いを拭うことは出来ない。

ここで「教える」ということにも簡単に言及しておかなければならないだろう。一般論として「美術」を教えるという事で言えば、様々な教材の開発や、継続的な指導法の研究など、豊富な事例と共にいかにも充実しているという印象を持っている。当然「美術教育」の1つの核でありそ

の背景でもあるが、それが冷静な批評を伴わずに、自己目的化してしまうのでは、本質を損なうことになりかねない、ここで詳細を論じることはできないが「教える」ということには、常に「教えることは可能か」という言葉を置いておかなければならない。「教える」ことの危険性を認識していなければ、そもそも「育つ」ということが危うくなってしまふ。

さて「美術教育」が置かれている状況は、とても厳しいものがあると巷間では言われているし、それを否定するものではないが、果たしてその厳しさの正確な実態は本当に理解されているのだろうか。学校教育（中・高）における「美術」の時間数の減少と美術専任教員の削減といった具体的な問題は見えているが、それを招いた複合的な原因が問われることは稀なことのように思われる、しかし、ここを1段も2段も探らなければ何も見えてこないことは明らかなことであって、逆に、危機の正確な把握から、「美術教育」の本質とその確固とした基盤を再構築する貴重な契機を見出すことが想像されてもいいのではないだろうか。そのなかで、例えば「情報」と「身体」の在り様の大変化は、顕著なこととして、根本的で緊急な課題の1つだと考えていいだろう。美術という営為がここで果たすべき役割と能力は決して軽いものではないし、社会に対して特に大きな責任が問われていることは厳に意識しておかねばならない。今の状況は、いわば期待が逸らされていることに対しての苛立ちの表れであるという事を考えていいのではないだろうか。

様々な意味で時間的な余裕がさほど残されているとは思われない。美術に携わる私たちの真摯で持続的な議論のなかから、力強く可能性を持ったヴィジョンが立ち上がらなければならないだろう。今回開催される福井大会が、その始まりの一步となることを願って開催の主旨としたい。

- アクセス・鉄道 / えちぜん鉄道福井駅 - (約 10 分) - 福大前西福井駅 [JR 福井駅東口から出て三国芦原線に乗車]
- ・バス / JR 福井駅 - (約 10 分) - 福井大学前停留所 [JR 福井駅西口から出て市内バス乗り場 10 番より乗車]
- ・タクシー / JR 福井駅 - (約 10 分) - 福井大学文京キャンパス [必ず「福井大学文京キャンパス」と伝えてください。]
- ・自家用車 / 北陸自動車道 福井北 I.C から国道 416 号線で西へ約 7km または福井 I.C から国道 158 号線で西へ約 8km

■問い合わせ先

福井大会運営委員長 宮崎光二

Tel&Fax 0776-27-8702

E-mail kmiyazak@f-edu.u-fukui.ac.jp

■平成 25 年度第 2 回拡大理事会 報告

日時：平成 26 年 3 月 15 日（土）14：30～16：00

会場：TKP 東京駅京橋ビジネスセンター

I. 挨拶

- ・開会の辞（新関 副理事長）
- ・理事長挨拶（大嶋 理事長）

II. 報告・協議

◎報告事項

- (1) H25 年度 会員・事業等 報告
- (2) 京都大会報告（京都大会開催運営大学）
- (3) 各種委員会報告
 - ・学会誌委員会（新関 委員長）
 - ・国際交流委員会（安東 委員長）
- (4) 日本学術会議動向・造形芸術教育協議会
- (5) 教育関連学会連絡協議会

◎協議事項

- (1) H26 年度学会「福井大会」（総会・研究発表等）
- (2) H26 年度アウトソーシングの予定と事業計画・予算（案）
- (3) H26 年度人事・引継ぎ
- (4) 理事長・代表選考委員会規程について（新関 副理事長）
- ・閉会の辞（小野 副理事長）



▲—大嶋彰理事長をかこんで終了後の記念撮影—

■事務局より

1. 未納会費がある方へ

会員管理をアウトソーシングするにあたり、スムーズな引き継ぎをさせていただくために、未納会費のある方には通知いたしますので、速やかに納入いただけますようお願いいたします。

2. 会員個人情報の変更

同様に個人情報に変更があった場合は、速やかにご連絡下さい。

3. 退会について

大学美術教育学会より退会を希望される方は、本年度の会費納入期限までにお申し出下さい。

会費納入期限を過ぎてからの退会申し出は、基本的に年会費を納入いただくこととなりますので、ご了承下さい。

また、退会時に未納会費があった場合には、納入いただけますようお願いいたします。

4. 学会誌のバックナンバー提供にご協力下さい。

これまでに発行された学会誌をご不要になられた場合、もしくは複数冊お持ちの場合、よろしければ事務局へご提供下さい。バックナンバーを必要とする理由は、

- ・国会図書館への送付
- ・学会誌のアーカイブ
- ・論文入手希望者への対応

です。なにとぞご協力をお願いいたします。

※ 2 冊以上必要なもの

- 第 1 号～第 7 号
- 第 14 号
- 第 21 号～第 28 号
- 第 31 号～38 号

※ 1 冊以上必要なもの

- 第 8 号～第 13 号
- 第 15 号～20 号

【総務局】

- ・相田隆司（東京学芸大学）「第 30 号」担当
- ・大泉義一（横浜国立大学）
- ・大成哲雄（聖徳大学）
- ・郡司明子（群馬大学）
- ・新野貴則（山梨大学）
- ・芳賀正之（静岡大学）
- ・松尾大介（上越教育大学）
- ・山田一美（東京学芸大学）